



2019年度 事業報告書

—2019年10月～2020年9月—

特定非営利活動法人STORIA

Table of Contents



1 Message

2 2019年度事業内容

—Message—

STORIAでは2016年より、「子どもの貧困」という社会課題に対し、「貧困の連鎖」を断ち切り「愛情の循環」へ、というビジョンのもと、経済的な困難を抱えるご家庭の小学生の子どもたちに、たくさんの愛情と、生まれ持った可能性が存分に発揮される様々な体験の機会を作りながら、子どもたち一人ひとりと寄り添う居場所活動を行ってきました。

STORIAでは、子どもたちがありのままでいられる場があること、そして愛情のある関わり合いが、子どもたちの自己肯定感を育み、自分の意思で人生を切り拓きながら生きていく礎になることに気づかされました。

その礎を築くためには、子どものみならず、子どもたちに関わる大人が幸せであること、子どもも大人も尊重される社会であることがとても大切だと考えています。

2019年度は新型コロナウイルス感染症により、社会全体が大きく揺らぎ、社会の価値観やあり方が変わってきました。私たちの活動もこれまで通りにはいかず、いま変化を求められています。そのような中でも私たちが大切にしている価値観や私たちのあり方を土台に据え、創造的な変化をしていく団体でありたいと思っています。

私たちは、目の前の子どもたち一人ひとりの心の声に耳を傾け、子どもたちの小さな選択の積み重ねに寄り添い続けること、そして子どもたちに関わる親御さんをはじめ、STORIAに関わる人々が心豊かで幸せであることを目指し、子どもたちと共にこれからの未来を創っていく歩みを続けていきます。

2019年度も多くの方々に子どもたちや親御さん、STORIAの活動を支えていただきました。
支えてくださったお一人おひとりに心から感謝いたします。



2019年度 事業内容

VISION 貧困の連鎖を断ち切り、「支えられる人」が「支える人」になり愛情が循環する社会をつくります

MISSION 経済的困難を抱えた子どもたちが、困難を乗り越え生き抜く力を育む環境を提供します

＜STORIAが大切にしている視点＞

「多くの方々とともに、子どもたちが自分らしく生きられ、幸せになるための社会を創る」

- ①地域連携: 経済的困難を抱える家庭が多い地域にて、地域と協働連携しながら子どもの居場所を開設する
- ②包括的支援: 困難家庭の小学生を対象にし、保護者も含めた包括的なサポートを行う
- ③非認知能力向上: 自己肯定感・自己効力感などの子どもの生きる力を育む
- ④多様な協働連携: 地域・企業・行政・大学・多くの市民などと連携し、創造的に視点で社会を共に創る

こどもサポート

こどもの居場所を開設し、愛情と多様な機会の中で子どもたちの可能性を引き出す事業を実施しました。また、2019年度は新型コロナウイルスの影響もありましたが、オンライン居場所の取り組みも行い、居場所の新たな形を生み出すこともできました。

保護者サポート

保護者の就労・労働・法律・子育て等の相談支援を実施していましたが、新型コロナウイルスの長期化による失職や減収などにより、相談が激増しました。STORIAでは、相談のみならず、ご家庭へ食糧支援も実施し、経済的負担が軽減するためのサポート強化を行いました。

啓蒙活動

セイフティーネットから零れ落ちるご家庭が無くなるために、ひとり親やその子どもたちの課題認知を広げ、制度改革へ推し進めるための啓蒙活動に力を入れました。著名な方々にご登壇いただき、リアル・オンラインでのイベントを実施しました。

こどもサポート

◇実施場所: 仙台市宮城野区内市営住宅

◇対象家庭: 児童扶養手当受給、生活保護受給、就学援助受給家庭の小中学生の子どもと保護者

◆実施回数: 104回

◆子どもの参加延べ数 1271人

◆登録外の子どもの参加延べ数: 119人

◆出席率: 85.8%

◆ボランティア・スタッフ参加延べ数: 1207人

STORIA実績数

月	2019									2020			合計	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
開催回数	9	8	8	9	9	9	9	9	9	8	8	9	104	回
子ども人数	104	106	114	92	67	86	126	130	120	108	108	110	1,271	人
出席率	98.4%	90.6%	84.7%	64.2%	53.1%	70.4%	93.9%	97.0%	95.6%	96.3%	96.6%	85.9%	85.8%	%
ボランティア/スタッフ数	111	94	100	95	86	94	101	117	109	101	98	101	1,207	人
登録外子ども人数	12	18	22	12	0	11	15	16	4	5	2	2	119	人
来訪者数	21	19	21	14	6	2	10	5	9	19	3	3	132	人

こどもサポート

食育

地域ボランティアさんが栄養のある料理や季節に応じた料理で、子どもたちの心身の成長を支えてくれています。また、ホットプレートで作れるメニューを考案し、子どもたち自らが楽しく調理ができるようになることも目指しています。

子どもの誕生日には、お友達がケーキを手作りし、みんなでお祝いすることが恒例になっています。家族のような団らんの経験すること、自分が大切にされる経験を通して子どもたちの心の安定、そして自分と他者を大切にする気持ちを育んでいます。

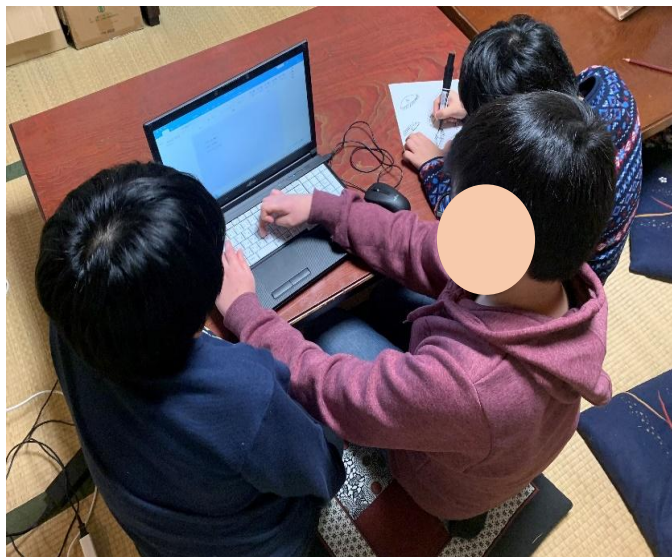


こどもサポート

まなび

STORIAで過ごす時間と空間は、こどもたちは自由に使えます。宿題は自分がやると決めた時間に行い、大人はこどもの言葉を信じて見守ります。

また、ここでは「おもしろい！・楽しい！」と思える経験をたくさん用意し、子どもたち自身の「やってみたい！」を大切にしています。こどもたちは、友達やボランティアさん、スタッフと一緒に楽しみながら、生きるための知識と知恵を身に付けていきます。



こどもサポート

非認知能力向上プログラム

STORIAではこどもたちの「やってみたい!」を叶える体験活動を通して、非認知能力の向上を目指しています。非認知能力は、IQを支えるための力とも言われており、自己肯定感、自立心などの「自分に関する力」と、社会性と呼ばれる共感性、協働する力、思いやりなどの「人と関わる力」のことです。低年齢期に非認知能力を身に付けておくことが、大人になってからの幸せや経済的安定につながるといわれています。

今年度は、女の子たちがカフェのオープンを目指しましたが、コロナによりお店はオープンできませんでした。男の子たちは“ラジオ番組の制作”を行い、「男たちの人生相談」という番組をオープンさせました。そのほか、町内会のお祭りの出店等など、小さなプログラムも含めて 10以上のプログラムを実施しました。



こどもサポート

オンライン居場所の開設

STORIAでは、4月からコロナにより居場所を休止しました。学校休校も相まって家庭の経済状況も逼迫し、子どもたちの置かれている環境がさらに苦しい状況となりました。子どもたちの孤独感やコロナ禍による教育格差の是正を目的に、オンライン居場所の開設を実施。毎週スタッフとオンライン用のコンテンツ開発を行いながらオンライン居場所の運営と実証実験を行いました。実験の結果、「孤独感の解消」「学びへの意欲の向上」とオンラインでも心を育むことができることが分かりました。様々な環境変化に対応できるスタッフやボランティア、プロボノさんの団結力に加え、多くの方々から寄贈いただいたPC、企業様からの通信設備のご支援、そしてサポーターさんの金銭的なご支援もあって乗り越えることができました。

リテラシーの説明

慣れる

繋がり

個別学習

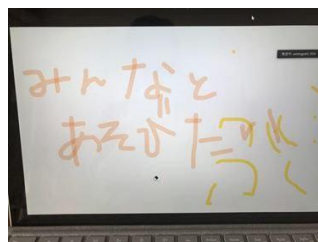
協働学習



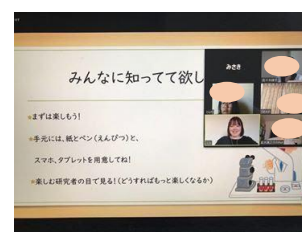
デバイスやzoomアプリの使い方、インターネットを使う上での約束事を説明。



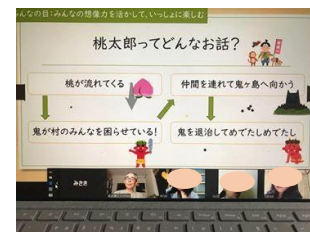
おはようの会を開始。Zoomアプリの使い方を遊びを通して慣れる時間。



お帰りの会を開始。みんなで顔を合わせ日常の出来事を共有する時間。



グループ分けを行い、開発した体験学習コンテンツを実施。主に個別学習。

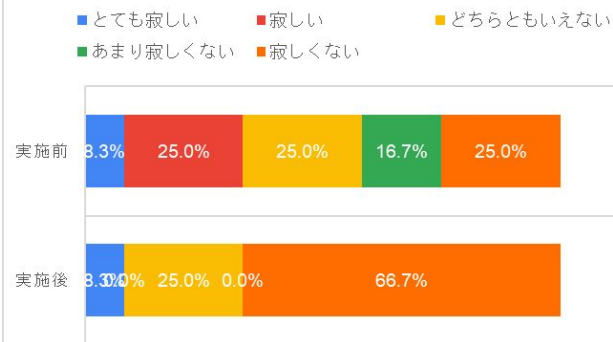


体験学習の最終回は協働学習。協働でゴールを目指す学習を実施。

こどもサポート

オンライン居場所 実証実験の効果測定

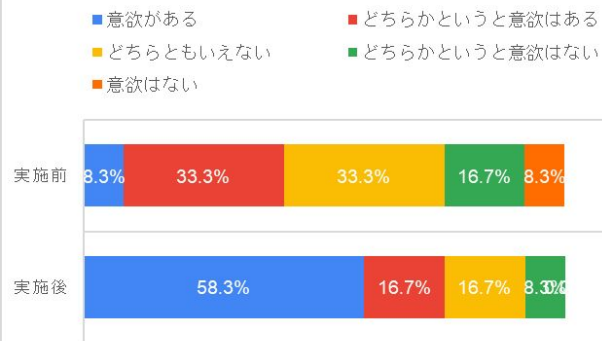
孤独感



・「とても寂しい」と「どちらともいえない」に変化はなかったが、「寂しい」と答えていた25.0%の子供が実施後0%となり、「寂しくない」に変化していた。

・「あまり寂しくない」16.7%の子供も「寂しくない」に変化し、孤独感が軽減している結果となった。

学び/挑戦意欲



・実施前は41.7%の子供が「楽しい」、16.7%の子供が「まあまあ楽しい」と答えていたが、実施後は、91.7%の子供が「楽しい」と答えていた。

・「楽しくない」が8.3%から0%へ減り、「どちらともいえない」が33.3%から8.3%に減った。

参考資料

経済的困難を抱えた子どもの孤立を防ぎ、教育格差の是正をオンライン学習にて行う
実証実験レポートより

保護者サポート

相談支援・食糧支援

保護者とは信頼関係を築くことを大切にし、子育ての悩みや就労、法律、行政支援についての相談を日ごろから行っていましたが、コロナ禍により相談件数が一気に増加しました。特に、失職や収入の減収による経済の問題、行政制度の問い合わせ等が多くありました。

参加家庭の90%以上がコロナによる減収ならびに経済的逼迫状態になるということが分かり、STORIAでは食糧支援を始めました。小中学校の休校時は、お弁当と食糧支援、休校後から現在に至るまで食糧支援を継続しています。現在も多くのご支援者様から物資やご寄付をお送りいただいています。



啓蒙活動

イベント

セイフティーネットから零れ落ちるご家庭が無くなるために、ひとり親やその子どもたちの課題認知を広げ、制度改革へ推し進めるための啓蒙活動に力を入れました。著名な方々にご登壇いただき、リアル・オンラインでのイベントを実施しました。

◆2019年10月18日

「貧困の連鎖を愛情の循環」へ～荒木博行さんと考える、教育と子どもの貧困問題のクロスポイント～

ご登壇者：荒木博行氏

◆2020年9月17日

「すべての大人に贈る 一学校では教えてくれない、自分らしく生きるということー」

ご登壇者：平岩国泰氏

◆2020年10月16日

「子どもたちを主語に！これからの教育のあり方を考える 一自己肯定感を育む取り組みから見えてきたものー」

ご登壇者：岩波直樹氏・前野マドカ氏

◆2020年11月24日

子どもたちのこれからを豊かに！～ユーグレナ出雲氏と考える、子どもの貧困へのサステナブルなソリューション～

ご登壇者：出雲充氏

みんなで未来をつむぐストーリー vol.3

子どもたちのこれからを豊かに！

～出雲氏と考える、子どもの貧困へのサステナブルなソリューション～

2020 11.24 (TUE)
18:30 ~20:00

オンライン開催
参加費無料（事前登録が必要です）

特定非営利活動法人 STORIA 代表理事 佐々木 綾子	株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充氏	特定非営利活動法人 STORIA 理事 山中 礼二
---------------------------------	----------------------------	------------------------------

啓蒙活動

ロビーイング

STORIAはシングルマザーサポート団体全国協議会に参加しており、協議会の方々と協力しながら、ひとり親の貧困が無くなるよう政策提言に努めています。

11月24日は、シングルマザーサポート団体全国協議会が院内集会を開き、国家議員へコロナ禍におけるひとり親支援の拡大を要望しました。12月4日に政府は今年度の補正予算の予備費を活用し、子ども 1人当たり最大5万円の給付金を追加で支給する方針を発表しました。

◆院内集会での取り上げたテーマ

- ・ひとり親世帯臨時特別給付金の再度支給などコロナ禍の支援を
- ・児童扶養手当の窓口の改善を
- ・就労支援施策の拡充を
- ・別居中のひとり親家庭への支援を
- ・児童扶養手当の大幅拡充を
- ・養育費の不払い解消を
- ・共同親権制度導入はストップを
- ・教育費の支援の拡充を

シングルマザーサポート団体全国協議会院内集会

コロナの影響で

収入が減った! 仕事がない!
このままでは年を越せない!

コロナ禍のひとり親世帯の子どもたちの現状と支援の拡大を
2020**11/24(火) 13:30~14:30**
開場 13:00 定員 60人

(会場) 衆議院第一議員会館 地下1階国際会議室

令和元年(2019年)シングルマザーサポート団体全国協議会が発足し、未給のひとり親への寡婦控除税制適用を訴え、多くの協力を得て改正を実現することができました。しかし、今年、新型コロナウイルスの影響拡大は特にひとり親世帯に大きな影響を与えました。しんぐるまざあず・ふぉーむがシングルマザーサポート団体全国協議会に協力で行った調査では、**7割が影響を受けたと答え、収入が下がったことから 18%が食事の回数を減らしたと回答しています。**この際、シングルマザーサポート団体はのべ3万人を超えるひとり親と子どもたちへ食料支援を行い、困難を抱える世帯の半生を助けてきました。しかし、このままでは年を越せないという声を聞かなくてはなりません。また、養育費の不払い解消の制度改革も迫られています。

取り上げるテーマ

- ひとり親世帯臨時特別給付金の再度支給などコロナ禍の支援を
- 児童扶養手当の窓口の改善を
- 就労支援施策の拡充を
- 別居中のひとり親家庭への支援を
- 児童扶養手当の大幅拡充を
- 養育費の不払い解消を
- 共同親権制度導入はストップを
- 教育費の支援の拡充を

主催 シングルマザーサポート団体全国協議会 (※参加団体の連絡先)

※しんぐるまざあず・ふぉーむは北海道(北海道)※認定特定非営利活動法人インクルーイブ(長野)※フューリーの会(山梨)※特別
支那利活動法人STORIA(宮城)※特定非営利活動法人ひとだにこども食育(宮城)※特定非営利活動法人しんるま(山梨)※
福祉活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※
生活活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※
ペレント(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※
認定しんるま(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※
子ども支援センター(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※
サポート(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※特定非営利活動法人ふたば(山梨)※
(後援) シングルマザー・交流協会(山梨)※特定非営利活動法人しんるま(山梨)※特定非営利活動法人しんるま(山梨)※特定非営利活動法人しんるま(山梨)※
連絡: 03-3263-1519 fax: 03-3239-6590 event@single-mama.com (※2020年11月24日開催) ※しんるま(山梨)※

リアル・オンライン居場所を支えてくれた — Junior Volunteer —

STORIAを卒業した中学生がジュニア・ボランティアとなり、小学生の居場所運営と一緒にサポートしてくれるようになりました。
コロナ禍の中でのオンライン居場所の運営は、中学生の男子が ICTのサポートを担ってくれました。



オンライン居場所の運営と小学生へのサポートをICT専門スタッフと中学生が担当。毎日、朝夕の居場所のファシリテーションと土日で実施する体験学習の運営サポート、メンタル面のサポートを担ってくれた。



リアルの居場所運営においても、中学生がボランティアとして居場所の運営、小学生へのメンタリング、体験学習の企画運営をサポートしてくれた。

— Volunteer training —



STORIAでは、子どもたちが置かれている背景に
思いを巡らし、子どもたちの目線になって考える
ボランティアのための研修を実施してきました。コ
ロナ禍ではオンライン研修に変更し、学ぶための
機会と対話時間を毎月継続して作ってきました。

— Training —

◆ファシリテーター

・小松崎彩子・梅本美紀

◆参加者(ボランティア登録数 128名)

・延べ 32名

DAY1: 子どもの貧困とは

DAY2: 子どもの発達段階と愛着形成

DAY3: 自分と他者の価値観を知る

DAY4: チームで支える居場所運営



— Probono Team STORIA—

仙台・東京・神奈川・名古屋・アメリカから総勢 31名の社会人のプロボノが、経営およびバックヤードにて専門スキルを用いてサポートくださっている。



◆プロボノが担っているプロジェクト

- ・オンライン、リアルイベントの企画運営
- ・ボランティア研修等の人材育成
- ・STORIAのニュースレター作成
- ・勉強会の企画運営
- ・広報
- ・事業のサポート



2019年度もありがとうございました。

皆さまのおひとりお一人のサポートに

心から感謝いたします。

